

## DIABETES CARE & EDUCATION NOW

### 患者が納得のいく 治療を

川井クリニック

川井紘一 Kawai, Koichi 院長と  
糖尿病医療スタッフ

所在地：〒305-0812 茨城県つくば市東平塚 715-1  
TEL.0298-54-1881



▲診察中の川井紘一院長。



当院は国道408号線沿いにあり、患者の多くは主に車で来院する。玄関付近や明るい待合室には鉢植えの花があふれ、アットホームな雰囲気が漂う。

院長の川井紘一先生は昭和43年東京医科歯科大学をご卒業後、同大学第三内科、内分泌内科、そして昭和52年からは筑波大学での研究・診療活動を経て平成8年1月に開業された。

#### 三つの基本理念を掲げて

「問診に出来るだけ多く時間を割く考えで診療に当たっています」また、「必ず“なぜ当院を訪れたのか”を聞くことにしています。患者さんの来院理由に即して解決していくことが大切」と川井先生は、患者が何を期待して、あるいは何に困って来院したかをよく聞き、それに対し納得のいく説明をし、治療をすることで信頼を得ることになる。その結果、継続治療の動機づけにつながることを強調する。

川井先生は開業する際、三つの基本理念を掲げた、まず情報の開示をする。次に“かかりつけ医”としての役割を担う。第三に合理的な診療である。

#### ①情報の開示

来院した患者にはまず診察の受け方などをわかりやすくまとめたカードが渡される。待ち時間に目を通すことで、診療の流れが把握できる。また、医療費や投薬についての詳細な情報を、単に掲示物だけではなくあらゆる場面で説明する。さらに、当院では、オリジナルの“健康手帳”と“糖尿病療養手帳”を活用し、使用する薬剤や治療経過を明示している。

#### ②地域の“かかりつけ医”として

当院の患者の内訳は、約80%が糖尿病、約15%が高血圧や甲状腺疾患、高脂血症、残りの5%は風邪な



左より臨床検査技師の本橋しのぶ、薬剤師の清水あかね、管理栄養士の酒井百合子、事務の増田佳子、井嶋恭子、吉田由美子、小沼恵美子の各スタッフ。



▲前列をよりナースの片貝貞江、川井院長、ナースの飯泉恵子、菅原薫婦長、後列をより浦山修医師、ナースの岩水志津子、植田洋子の各スタッフ。



足の検査をする浦山修医師。

どの急性疾患である。また、外科や皮膚科など糖尿病・内分泌疾患以外での相談もあり、そうした方には専門医を紹介している。専門クリニック（内分泌・代謝疾患）でありながら“かかりつけ医”としての機能が発揮されている。

### ③合理的診察

当院では予約制を当初から採用している。定期的な通院が必要な糖尿病治療に関して、1年を通じて計画的に検査を実施し、情報の提供・支援を円滑に進めることができ、待ち時間も減らすことができる。医療スタッフにとっても患者にとってもメリットがある。

### オリジナルのファイルや糖尿病手帳の活用

当院の基本理念の一つである“情報の開示”を具体化したものがオリジナルの“健康手帳”と“糖尿病療養手帳”である。



指導中の管理栄養士の酒井さん。「教育はこだましあうこと」と、当院独自のプログラムに沿って、患者の継続治療を支援する。

5年分のデータが書き込めるオリジナルの糖尿病療養手帳。予想HbA<sub>1c</sub>値を書き込む欄もあり、眼底所見なども詳細に記入できる。

### 糖尿病療養手帳



当院に定期通院される患者には“健康手帳”（A4判のファイル）が渡され診察時に持参してもらう。通院に関する案内や緊急時の連絡先、各種検査結果、疾患の解説、処方されている薬剤に関する情報（薬剤名、飲み方、副作用など）が記録され、医療スタッフが書き込める欄もある。また、患者自身が必要と思った情報もファイルでき、当院だけではなく、入院・転院する際にも有用な患者情報となるのである。

一方の“糖尿病療養手帳”は様々なタイプの手帳を比較検討し、アンケート調査などをもとに胸ポケットに入るB6判のオリジナルの手帳を作成した（写真）。

### 患者支援プログラムと“桐の木会”

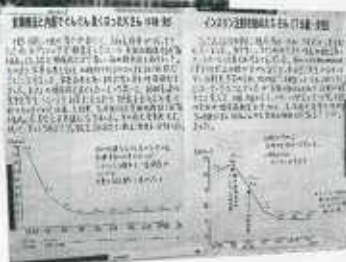
当院には独自の教育システムがある。糖尿病と診断された患者に対しては、オリエンテーションの後、定期通院をしながら6カ月で一通りの糖尿病の知識が身



DIABETES  
CARE & EDUCATION  
NOW



当院の患者の治療経過を提示し、療養への意欲を高める。



採血するナースの片貝さん。

事務の吉田さん(手前)と井嶋さん(奥)。



「桐の木会」の裏磐梯への日帰り旅行、途中のロイヤルホテルで昼食をとる。



「桐の木会」の調理実習、川井院長をはじめ当院のスタッフも参加する。近隣の豊里公民館を利用。

につく個人指導システムである。テーマによって栄養士とナースが関わる。この個人指導システムのユニークな点は、この課程終了後には個々の患者の病態や生活状況によって更に細かな「臨時教育項目」が設けられていることである。例えば血糖値の変動が大きい場合や腎症あるいは妊娠への指導である。

当院で活躍されている管理栄養士の酒井さんは「基本的には「食品交換表」は使用せず「目安量」を中心に、個人の生活状況を把握した上で」指導している。また、「経過をみて良くない場合はそれに応じて食事内容を話し合いながら見直しますが、良い場合もその要因を話してもらい、療養意欲を高めるようにしていま

す」と患者の気持ちを大切にしている。

また、婦長の菅原さんは「採血に際してナースは必ず患者さんに声をかけ療養上の問題点を聞き出し、適切なアドバイスをするようにしています」と、スタッフ全員が患者に関わる体制である。また、当院のスタッフは研究テーマをもって日常の仕事にあたっており、最近では長期的にコントロール不良患者に対する心理的なアプローチの成果について研究・発表をしている。

患者会は「桐の木会」といい、当院の入口に桐の木があることと筑波大学の象徴が桐であることとに由来する。「食事会」「ウォーキング」「日帰り旅行」など、年間を通して多彩な活動が行われている。

当院では開業以来毎週2回の勉強会が行われ、高い水準の診療の基礎となっている。また、川井先生は茨城県糖尿病療養指導者研修会を立ち上げ、当院のスタッフもその要となって活動している。4月からは薬剤師が常勤となり、クリニックの改築と設備の拡充も予定されている。糖尿病医療の最前線として当院の役割はますます重要なものとなっている。

(文/本誌編集室)



「桐の木会」ウォーキング、ウォーキングの後に院長や管理栄養士の酒井さんを中心に、ヘルシー弁当を食べながら療養体験談を話し合う。